

## 2 日毎に新しく生まれる

「一日は、私どもにとりては短き一生涯であります。朝生まれ、昼に働き、夜は復活の希望をいだいて眠りの床につきます。かくして私どもには一年に三六五回の生涯があります。

なんと楽しいことではありませんか。」

（『続一日一生』 はじめ 内村鑑三）

何という充実した言葉ではありませんか。このような“一日一生”、という充実した一日を生きるためには、毎日がキリストに在ることによってのみ可能となるのであります。聖書は、キリストに在るならば、それができると教えております。

では、キリストに在るとはどういうことでしょうか。これはむつかしいことではなく、私たちが神にゆるされ愛されている神の子どもとして、父なる神に「天のお父さま」と呼び掛けて

祈ることができればそれがキリストに在る証明であります。それができない時は、ちょっと危ないのです。毎日祈ること、聖書に親しむこと、父なる神の御声に霊の耳を傾けること、これを毎日するのがキリストに在る神の子どもの生活であります。

(1993年1月3日)